

WORLD CLEANUP DAY 活動報告書

2022

-日本と世界各地の活動事例-



WCDJくにあち

**WORLD
CLEANUP
DAY** 2022
17 SEP

LET'S DO IT!

地球をきれいにする運動に参加しよう！

WORLD CLEANUP DAYとは？

■ 2008年、北欧の小さな国、エストニアで若者9人が、不法投棄されたゴミがあふれた森林をきれいにしようと国じゅうに呼びかけました。「Let's Do It 2008」と命名されたこのクリーンアップ運動には1日で5万人以上（エストニアの人口の約5%弱）のボランティアが参加し、わずか5時間で1万トン以上の不法投棄ゴミの除去に成功しました。

■ 人口の5%が一致団結して課題解決のために行動するという市民運動の力を見つけた、このサクセスストーリーに端を発し、人口の5%の参加を目指すクリーンアップ運動がヨーロッパ各国、そしてアフリカ、アジアへと広まり、2018年から世界各国で同じ日（9月第3土曜日）に地球を一齐にキレイにする「WORLD CLEANUP DAY」として実施されました。第1回の2018年には157ヶ国で1,760万人が参加し、この活動が評価され、主催団体であるエストニアのLet's Do It Foundationは、2018年

ユネスコ／日本ESD（持続可能な開発のための教育）賞を受賞しました。

■ その後、主催団体がNGO Let's Do It World に再編され、毎年「WORLD CLEANUP DAY」が実施されてきました。2019年には180ヶ国/2,120万人、2020年には166ヶ国/1,100万人、2021年には191ヶ国/850万人、2022年には190ヶ国/1,500万人が参加し、WORLD CLEANUP DAYを通じて推計で20万トン以上のごみが世界中で拾われました。



ジョージア

-日本の活動状況-

■ 日本でも2018年、駐日エストニア大使館の支援を受けて「WORLD CLEANUP DAY」を開催しました。特に2018年はエストニア建国100周年でもあり、メイン会場では、WORLD CLEANUP DAYの紹介と合わせて、日本・エストニア友好協会のご協力のもと、エストニアの文化を紹介するイベントも開催しました。2019年からは「海と日本PROJECT」の一環として、日本財団・NPO法人海さくら・WORLD CLEANUP DAY日本事務局の共催で「WORLD CLEANUP DAY」を実施してきました。

そして2022年、NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPANを設立し、引き続き「海と日本PROJECT」の一環として「WORLD CLEANUP DAY」を運営・実施しています。

■ WORLD CLEANUP DAY 2022は、WORLD CLEANUP DAY当日の9月第3土曜日（2022年9月17日）を含め、2022年9月1日から30日までの間、WORLD CLEANUP DAYの活動として、全国各地で清掃活動が実施されました。

代表理事挨拶

2022年度も無事にWORLD CLEANUP DAY 2022を開催することができました。ご参加・ご協力いただいた団体・企業・個人の皆様、誠にありがとうございました。また、ご後援いただいた駐日エストニア大使館、国立市、そして日本財団様にも感謝申し上げます。

WORLD CLEANUP DAY 2022当日は、台風が奄美・沖縄地方に来るなど悪天候もあり、実施できない地域もありましたが、9月を通して過去最高の8,384名の方がクリーンアップを実施

してくださいました。人々が協力し合って一つの課題に取り組むことの大きさを悟られました。

WORLD CLEANUP DAY 2023は、9月第3土曜日（9月16日）を含め、2023年9月1日から30日までの間、実施いたします。世界各国で実施される「WORLD CLEANUP DAY」に合わせてクリーンアップを行なって世界とつながり、また世界に発信していただければと存じます。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。



協賛: SPRIX

運営協力: NPO法人海さくら、WCDJ沖縄、WCDJくにたち、日本・エストニア友好協会
後援: 駐日エストニア大使館、国立市



＜日本での運営・実施団体＞
NPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPAN
代表理事 浅井孝夫

集計結果

2022年9月17日(土)

【2022年9月1日～30日の実施含む】



いわきサンシャイン拾活クラブ



フロッキング浜松



読谷ビーチクリーンネットワーク



理研計器株式会社



バトラン古河

	2021年	2020年	2019年	2018年
参加人数	5,949人	3,916人	4,333人	811人
拾ったごみの量	4,270袋	5,520袋	2,700袋	406袋
可燃	3,261袋	1,565袋	1,339袋	196袋
不燃	1,009袋	955袋	1,361袋	210袋
活動地域	74箇所	92箇所	178箇所	269箇所

「Let's Do It World Annual Report 2022」年次報告 日本語翻訳版より抜粋

2022年9月17日、 世界190カ国でWORLD CLEANUP DAY 開催 —戦争や紛争、自然災害にもかかわらず、1,500万人参加。

自然災害、紛争、戦争そして政治

2022年のWORLD CLEANUP DAYは、COVID-19のパンデミックから世界がまだ落ち着いていないことを証明するものでした。気候変動の結果として、毎年増えている自然災害と異常気象を目の当たりにしています。

パキスタンでは、前例のないモンスーン雨により、国中で洪水や地滑りが発生し、国土の半分、数百万人が影響を受けています。それでもパキスタンチームは、例年なら200万～300万人を動員するWORLD CLEANUP DAYに、小規模ながら南部で1万5千人がクリーンアップ活動を実施しました。クロアチア、ルーマニア、コソボ、スロベニア、マケドニア、ベルギー、コスタリカ、カメルーンでも大雨のためにイベントを中止、または勇気あるボランティアにより小規模に活動を行わざるを得ませんでした。ブルガリアや中国の一部など、WORLD CLEANUP DAYの前週に暴風雨に見舞われた国もありました。

しかし、嵐だけではありません。スリナムやチュニジアでは、暑さのために活動が中止になりました。パレスチナの人々は、まだ暑くない早朝に史跡の清掃を行いました。

世界も落ち着きを失い、紛争や戦争が頻発しています。アフガニスタンでは、タリバンが市民活動に価値を認めない中でも、クリーンアップ活動が行われました。昨年は人口の約10%が参加したキルギスは、WORLD CLEANUP DAYの前日にタジキスタンの攻撃を受けて活動を延期しました。ウクライナは、ロシアとの戦争で多くの被害を受けました。しかし、それでも12万人近くを集め、「地雷の基礎知識と市民の安全を確保する方法」をオンラインで説明するとともに、紛争地域内の人目

につかない場所で活動しました。また、多くのウクライナ人が戦火から逃れた先の国々でもクリーンアップ活動を行いました。例えば、ポーランドのある地域では、参加家族の約3分の1がウクライナ人だったそうです。

イランでは、最も重要な宗教的な弔いの儀式のために、WCD2022が延期されそうになり、苦戦しました。ガボンやデンマークなど、選挙と重なって混乱した国もありました。



ミャンマー

社会に与えた影響

WCD2022では、予想を遥かに上回るほどの協力があり、前向きに影響し合うことができ、そして数々の新記録が打ち立てられて、団結すれば持続可能な未来に向けて軌道修正することができるという希望が見えました。WORLD CLEANUP DAYは、キプロスにとって全土が団結し、自国の美しい島を守るための連帯責任を果たす新たなスタートとなりました。歴史上初めて、島のギリシャ側とトルコ側双方が、「共有の家」をクリーンアップするために集まりました。

ヨーロッパ最大のプラスチック輸出国であるオランダは、世界でも最大規模であること（プラスチック・スーパ財団調査）を知り、廃棄物の輸出について行動を起こす必要性を認識しました。昨年は、オランダから7,000万キロのプラスチック廃棄物がインドネシアに流れていきました。今年のオランダのクリーンアップチームは、4万人の参加者と30社のスポンサー企業とともに、この問題を解決するためにインドネシアと緊密に協働しました。このチームは、EU域外へのプラスチック廃棄物の輸出を禁止することを最終目標に、廃棄物が他の国に流出しないようアドボカシー活動に力を注いでいます。EUはすでに廃棄物輸送規制の強化に取り組んでいます。すべての国へのメッセージは、自国をクリーンアップし、ごみを他国に流出させることがないようにしようということです。



台湾

廃棄されたごみには国境がなく、それは輸出の場合だけにとどまりません。台湾はリサイクルシステムが充実していますが、海流が海岸にごみを運んでくるのです。15,000人以上の人々が台湾の海岸をクリーンアップし、ごみのない世界を作るために貢献しました。

子どもと若者たち



モザンビーク

モザンビークは、一生懸命にやれば、必要な人数を集め、クリーンで健康的な地球を目指して一緒に頑張るよう働きかけることができることを証明しました。昨年は約25万人のモザンビーク人が地域のクリーンアップボランティアに参加しましたが、2022年にはその8倍になりました！参加者200万人のうち半数以上が小学生でした。モザンビークのリーダー、カルロス・セラ氏は、教育は未来への種をまくための重要なツールだと考えています。

持続可能な社会をつくるために、子どもや若者の参加が重要であると感じているのは、モザンビークではありません。エストニアでは、参加者の93%が子どもや若者でした。これは、ごみのポイ捨てを防ぎ、環境を保護し、環境と調和して生きていくことの必要性を認識させるために戦略的に決断されたものです。また、ドイツ、チャド、ポーランド、スペイン、コートジボワール、インド、スウェーデン、タンザニア、モロッコ、コンゴ民主共和国など、多くの国々で子どもや若者に特に焦点が当てられています。

多くの場合、子どもたちはタバコの吸殻などのごみを拾ったり、ミャンマーのように湖畔で酒の空き瓶を拾ったりしていました。ブラジルの若者は、WORLD CLEANUP DAYをきっかけに、ごみから解放され、世界を変えることが重要であることを理解しました。スペインの子どもは、プラスチックを拾うことを誇りに思い、プラスチックで魚が死んでいくのを見たくないと宣言しました。

ビーチ、海と海洋

カナダは、海洋ごみにも着目しました。漁師とともに、古い網などの漁業公害を一掃しました。アイスランドも、海に全力投入しています。アイスランドのLDIWの創設者であるトーマス・クヌッツソン氏は、ダイバーとして水中世界の素晴らしさと同時に汚染も見てきた経験から、地球をクリーンアップすることに情熱を傾けています。彼は27年間、このミッションに取り組んでいます。

イギリスでは、刑務所の若者がクリーンアップ活動に参加し、めざましい成果を上げています。このアイデアは、米国でも採用される予定です。ベネズエラでは、WORLD CLEANUP DAYに先立ち、子供や障害者のためのクリーンアップデーと、先住民のためのクリーンアップデーを設けましたが、WCD当日は、海のクリーンアップが行われました。



アイスランド

様々な種類のクリーンアップ



カンボジア

カンボジアの人々は、WORLD CLEANUP DAY 2022を記念して、音楽を流しながら川の清掃を行いました。2022年2月以来、彼らは川から約120トン (!) のごみを集めました。

デンマークの人たちは、ハイキングをしたりカヤックを漕いだりしながらごみを集めました。デンマークは、ヨーロッパで最も一人当たりの廃棄物量が多い国ですが、社会全体でごみ拾いや削減に取り組んでいます。

ギリシャは、一つの山からすべてのごみを一掃し、史上初のプラスチックゼロの山を作りたいと考えています。例えば、1980年代のコーラのボトルなど、その山で見つけた“奇妙なプラスチック製品”を集めた博物館を作る計画です。

WORLD CLEANUP DAYは、すでにラトビア社会に定着しており、大衆が参加しています。政府、大企業、そしてあらゆる年齢や能力の人々がこの運動に参加しています。人々はWORLD CLEANUP DAYに参加するだけでなく、国をより美しくするために「幸福の木」を植えています。)

クリーンな国と観光

国をクリーンに保つことは、観光や国民の所得の増加につながります。バハマの人々は、観光地であるバハマの自然を守ることは重要であり、将来的に他国の人々がバハマを賞賛することにつながるという結論に達しました。モルディブでは、観光地は比較的きれいですが、小さな島々はそうではないため、地元の小さな島々を中心にクリーンアップ活動を行いました。11月にはエジプトのシャルム・エル・シェイクでCOP27が開催されましたが、ゲストが到着する前にエジプト人が自国をクリーンアップしました。ナイル川はエジプト遺産の象徴ですが、世界経済フォーラムによると、世界の海洋ごみの90%を占める10の川のうちの一つでもあります。そのナイルをきれいにすることが、今回の活動の焦点でした。



モルディブ

クリーンになっています！

エストニアやキュラソーなどでは、ごみが散乱している場所を探すのに苦労するほどきれいになっているという嬉しい報告がありました。この「嬉しい問題」が、世界的に年々増えていくことを願っています。

2018年から2021年までのクリーンアップと比較すると、全参加国の19%である36カ国が過去最高のクリーンアップを行い、全参加国の45%である86カ国が、2021年と比較して参加人数が増加したと言えます。

WORLD CLEANUP DAY2022には、1,486万7,374人が参加しました。全体として、約6万トンのゴミが自然から取り除

かれました。ボランティア達は、たった1日で約3,000万時間を環境保護のために捧げたことになります。

2018年から2022年の間に、合計197カ国がWORLD CLEANUP DAYに参加し、合計7,137万5,919人が参加しました。

私たちの記録によると、WORLD CLEANUP DAYに一度も参加していない国は、ベリーズ、リヒテンシュタイン、ソロモン諸島、エスワティニ、トルクメニスタン、ツバルだけです。これらの国々が私たちの大きな家族の一員となることを楽しみにしています。



World Cleanup Day ポーランド



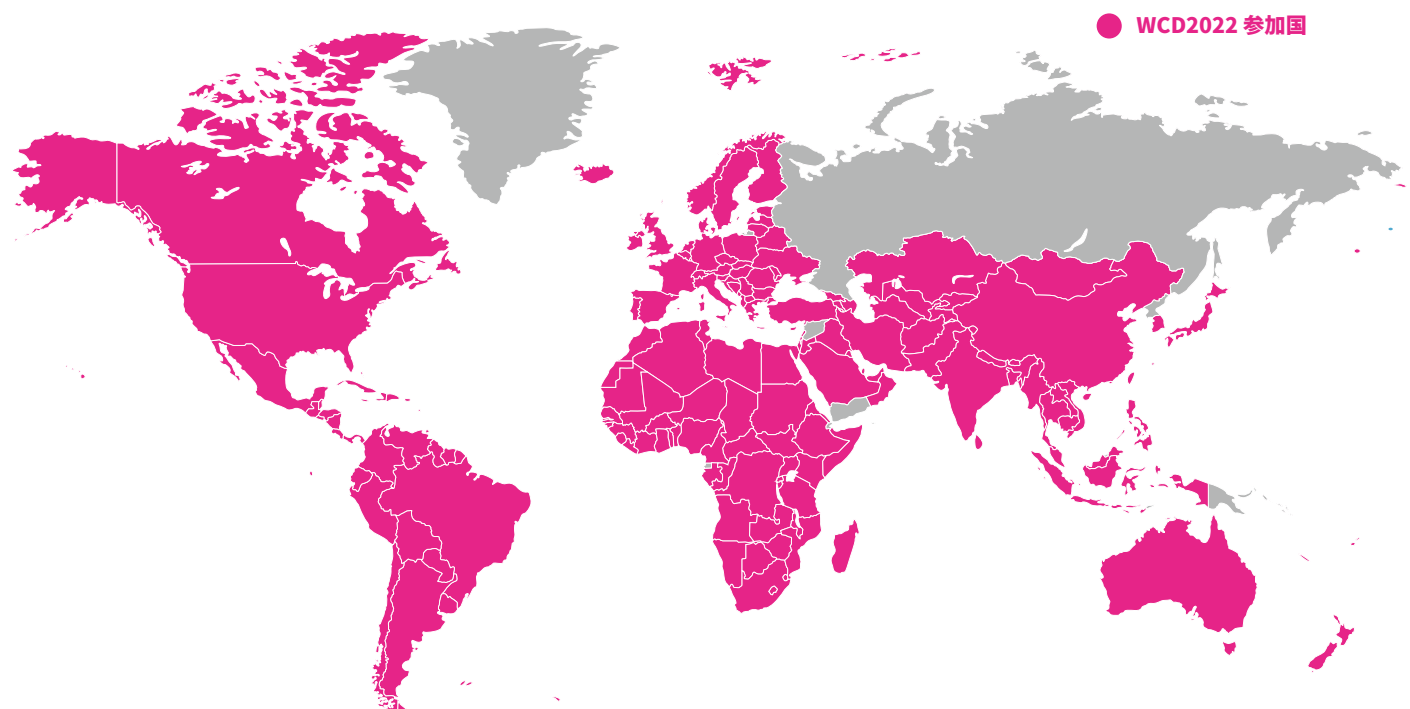
THANK
YOU


参加者
1,500万人

参加国*
190
カ国

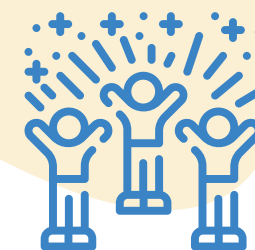
ボランティア時間
3,000万

ごみ回収量
6万
トン



参加者数 2022年トップ10

メキシコ	2 385 720
インド	2 100 000
モザンビーク	2 000 000
インドネシア	1 896 301
アメリカ合衆国	1 250 000
エチオピア	524 211
イタリア	370 793
フィリピン	359 110
カザフスタン	338 554
中国	320 000



人口参加率 2022年トップ国

ラトビア	8.65%
モザンビーク	6.07%
キュラソー	4.39%
ブルガリア	4.12%
エストニア	3.76%
キルギス	3.52%



2018-2022 WCD 5回のうち

参加国の19% **36カ国**が
今年のWCDが過去最高となった

参加国の45% **86カ国**が
昨年より参加者数が上回った



7,100万人の
ボランティアが **197カ国**から 参加
2018-2022年に



*世界203の国と地域のうち

世界の皆さん、ありがとう

9月17日、WCD2022、Let's Do It Worldは、第5回 WORLD CLEANUP DAYを記念して、限定版「サンキュートークン」のプログラムを開始しました。私たちはまた、ごみのない世界をつくるというミッションのもと、地球上のあらゆる地域の人々を結びつける世界的な動きが広がっていることを嬉しく思っています。あなたの貢献が世界に大きな変化をもたら

したことを忘れないでください。私たちの感謝は尽きません。

このトークンは、皆さんの貢献に対する個人的な証明書と、大きな感謝の気持ちとして作られました。トークンは、参加者のみなさんをLet's Do It Worldの大きな家族に迎え入れるものです。



World Cleanup Day 香港

感銘を受けた活動報告

アフガニスタン



9月17日のWORLD CLEANUP DAYに、Let's Do It アフガニスタンチームは、アフガニスタンのカブールとニガハル州でクリーンアップ活動を実施しました。800人のボランティアを動員し、個人またはグループで、それぞれの街や村のクリーンアップを行いました。その結果、約10トンのごみを回収することができました。

このクリーンアップ活動の目的は、単にごみを片付けるだけでなく、アフガニスタン社会に市民活動やボランティア活動の文化を普及させることでした。Bureau for Rights-Based Development (BRD・開発/人道支援組織)は、積極的に市民やコミュニティ、ステークホルダーの環境に対する意識を高め、環境破壊という深刻な問題に対して共に取り組む機会を提供しています。

アフガニстанは現在、悲惨な人道的危機に瀕しています。私たちは、このようなクリーンアップキャンペーンを通じて、地域社会や市民社会が参加し、地域社会とともにこれらの問題に取り組むことができる市民のための場を促進・創造してきました。

アフガニスタンでのクリーンアップキャンペーンは、2002年からアフガニスタンで活動している権利に基づく開発団体、Bureau for Rights-Based Development (BRD) が企画・運営しています。



インドネシア

2018年から2022年まで5回のWORLD CLEANUP DAYの参加者数の合計で、最も多くのボランティアを集めた国として1位を獲得したことは、快挙です！しかし、WCDインドネシアのチームワークはそれだけにとどまらず、2022年にはインドネシアを襲ったCOVID-19パンデミックの中で、オンラインとオフラインのハイブリッド形式を積極的に進めてきました。



インドネシア全土34州でのクリーンアップ活動に加え、多くの州チームが一般市民や学校を対象とした教育活動を行っています。ごみの分別、管理、廃棄物が私たちの健康や環境に与える影響、ごみ銀行など、廃棄物に関するさまざまな題材がその教育活動で取り上げられています。

WCDインドネシアは、政府、企業、地域社会、学校など、さまざまなステークホルダーと連携しています。国・州レベル（環境森林省、海洋・投資担当調整大臣府、人間開発・文化担当調整大臣府）、州レベル、市・地域レベル、さらには村レベルなど、さまざまなレベルの政府関係者が私たちの運動を支えています。インドネシア環境森林省は、毎年9月のWORLD CLEANUP DAYをカレンダーに掲載し、州・地域（市・区）レベルの環境サービス員を積極的に動員し、クリーンアップ活動を支援しています。

今年のWORLD CLEANUP DAYは、市民の大きな熱気に包まれました。その結果、9月10日から25日までのほ

ぼ1カ月間、インドネシア全土でクリーンアップ活動が行われました。WCDインドネシアチームは欧州連合と協力し、EU気候外交ウィークの一環でプロギング・イニシアチブをランドイベントとして開催しました。ナショナルチームは、年に一度のクリーンアップイベントのほか、毎月の活動も行っています。例えば、ウェビナー、学校巡回興行、教育イベント・ワークショップ、インスタグラムライブ、他の環境コミュニティとのネットワーク構築などです。

クリーンアップの精神は、年に一度のイベント時だけに現れるものではありません。メインイベントの後、ナショナルチームはデジタルクリーンアップや、市民宅の不用品を再利用するための無料断捨離サービスも実施しました。また、地域によっては、毎週、毎月、定期的にクリーンアップ活動を行っているところもあります。このように、WORLD CLEANUP DAY運動は、環境保全のための持続可能な取り組みとして、徐々に浸透してきています。今後ずっとこの精神を大切にしていきたいと思っています。



メキシコは動植物の多様性に富んだ国であり、各州に多くの生物多様性が存在します。私たちは、生態系の保全と保護を目指し、クリーンアップや環境保護活動に取り組んでいます。私たちの活動では、NGO、企業、政府、地域社会、そして多くの人々の善意と協力のもと、生息地の継続的な改善に取り組んでいます。



すべての活動は、私たちが「Operative Cell」と呼ぶ全国のチームが、国の内陸部で行っています。2022年、Let's Do It メキシコは379のチームや学校、大学、コミュニティ、その他のNGOから238万5,720人のボランティアが参加しました。クリーンアップ活動の後、参加した各州で400万本以上の樹木の再森林化を行い、WCD2022の活性化に貢献しました！

今年は、国やメキシコ政府が認めた環境イベントに参加するだけでなく、65社以上の会社スタッフと協力して、環境啓発活動を行うことができました。WORLD CLEANUP DAYには、メキシコ共和国32州のうち、すでに18州が参加しています。

認知度を高めるために、100万人以上が視聴する全国メディアに出演しました！

世界で初めて、たばこの吸殻をセルロースに変えるリサイクル工場を作りました。800万本以上の吸殻を回収し、政府と協力して、吸殻のリサイクルを支持する法律制定に取り組みました。

WCD2022を記念して、メキシコシティでグレート・レースとフェスティバルを開催しました。1年を通して、200以上のデジタルクリーンアップを実施し、企業向けの会議に参加し、学校や大学で意識を高め、イベントで展示会を開催してきました。私たちの取り組みのおかげで、190万4,000個の照明のつけっぱなしを防ぐことができました。

メキシコ

ウクライナ

2022年9月17日、ウクライナ人は世界191カ国とともに、WORLD CLEANUP DAYに参加しました。全面戦争にもかかわらず、ウクライナの24地域と海外から119,926人が、ウクライナで行われる今年最大のエコ・イベントに参加しました。

小学生、学生、当局の代表者、社会的責任のある企業、メディア、スターアンバサダー、エコ活動家、関心のある市民が5,133箇所を一斉に掃除しました。その結果、236万8,228キロのごみが回収され、7万547キロの二次原料(リサイクル原料)が処理に引き渡されました。この二次原料で得られた資金は、ウクライナ陸軍を支援するために寄付されました。

市民は、昔ながらの掃除、施設や組織の敷地内でのごみ拾い、個人的なクリーンアップ(特に、家庭内の片付けや防寒用などのチャリティ向けの不用品収集)、瓦礫の解体、プロギング(ジョギングしながらゴミを集める)、「Find, sort, return」リサイクルポイント(リサイクル品を分別してリサイクルに出す)を示した全国マップ(www.recyclingpoints.org)を作成するなどの活動に参加しました。

戦況に関連して、全ウクライナ青年運動「Let's do it Ukraine」は、インターネットを通じて参加する新しい形式のデジタルクリーンアップを始めました。このイベントでは、150万7,164GBのデジタルごみが除去されました。また、参加者は、376,379トンのCO2排出と753,582kWhの年間エネルギー使用量を削減することができました。



エストニア

時間とともに、WORLD CLEANUP DAYはエストニアで大きく変化・発展してきました。個人の参加を呼びかけた2018年は、1万人のボランティアという低い参加レベルでした。

エストニアでのLet's Do It 運動は主に、元の2008年にならって5月に行われます。それに加えて9月にWORLD CLEANUP DAYを開催するというのは新しい試みで、エストニアに2日もやる必要があるのかという疑問の声もありました。その後、学校や幼稚園で実施するクリーンアップ活動のフォーマットを作成しました。また、環境に関するトーキングポイントを考案し、エストニアのすべての教育機関に参加を呼びかけました。現在、エストニアではクリーンアップボランティアの大半が若者で、2022年には

その数が45,000人にまで達しました。クリーンアップ活動の最後に大きなコンサートを開き、参加校の中から1校に抽選でプレゼントが贈られたところもあります。

2021年からは、企業にクリーンアップ活動への参加を呼びかけるようになりました。2022年には、コミュニティとコミュニティが主催するクリーンアップ活動に焦点を当てました。こうした方向性の展開は、2023年の最重要課題でもあります。

現在、WORLD CLEANUP DAYの参加者数は5万人に達し、エストニアで最大かつ最も影響力のある環境イベントとなっています。





コロンビアでは、350カ所以上で
クリーンアップ活動を行い、参加者は
2万2,000人以上でした。
720トン以上のごみと
15,000本の吸殻を回収しました。
デジタルクリーンアップでは、
2,000ギガバイト以上が削除されました。

これは、ナショナル・リーダーたちのチームと、非営利団体や各領域のコミュニティの協力を得た、すべてのボランティアがサポートしたお陰です。

Día Mundial de Limpieza (WCD) 2022に貢献された方々の努力、時間、献身に感謝します。私たちにとって、皆様からのご支援、ボランティア活動、リーダーシップをいただけることは、喜びであり、光栄なことです。今年は、各国のリーダーやボランティアのチーム全員の努力のおかげで、記録を更新することができました。

私たちは、環境を意識した消費と循環型経済キャンペーンを通じて、環境教育を続けています。

やったね、コロンビア!



コロンビア



イラン

ボランティア活動は常に挑戦的です。
困難を伴う複雑な状況においてこそ
素晴らしいストーリーが生まれます。

私たちのストーリーは、WCD2022の前日に当局から電話があり、許可を得ていたにもかかわらず、イベントの計画をすべて中止しなければならないと言われたことから始まります。

WCD2022は、イランで最も重要な宗教的な吊いの儀式と重なり、全国から何十万人もの人々が集まる予定でした。当局は、渋滞や人々の安全について懸念していました。しかも、WCDのハッピーな雰囲気は、吊いの儀式の雰囲気にはそぐわないと判断されたのです。

せっかく1年かけて準備してきたのに、このメッセージですべてが台無しになってしまう。まさに苦境に立たされました!

しばらくして、私たちは気を取り直して事態を理解しました。

数時間しかなかったものの、あきらめずに解決策を探そうと思い、この大きな宗教儀式の主催者に連絡を取り相談しました。時間がない中、最後の最後に私たちが企画した人の多い場所でのクリーンアップ活動に、儀式主催者もメンバーとともに参加することで合意に達しました。

最終的には、とてもよい結果となりました。予想外の複雑な状況を、最大限に活用することができたのです。参加者の数が予想を上回っただけでなく、主催者側からも、この協力関係を翌年も継続したいとの申し出がありました。

したがって、WCD2022は、これまでで最も大きく、最もインパクトのあるイベントだったと言えます。友人たちへのアドバイスです。困難にぶつかったら、この言葉を思い出してください。「方法を見つけるか、作るか、そのどちらかです!」



インド

Let's Do It インドは、WCD2022に、64の省庁・自治体、55の企業、60の大学・機関の支援を受け、全29州、642都市、7842校を含む200万人以上の人々を集めました。

2018年の発足以来、現在Let's Do It インドは、全国で5,500人以上のアクティブなボランティアとともに活動するまでに成長しました。私たちは、環境保護キャンペーンやイニシアチブを通じて、より良い未来を創造するためにポジティブな社会変革をもたらす活動をしています。これらは、教育、ガバナンス、健康とウェルネス、クリーンアップ活動、持続可能な観光と文化活動の促進など、Let's Do It インドの精神に密接に適合する社会のあらゆる分野を対象としています。

年間を通じて、ウェビナーやワークショップ、リーダーズアカデミーなどを四半期ごとに開催して大衆を動員し、環境省はそのサポートパートナーとして活動しています。

Let's Do It インドは、世界で最も若い国を世界で最もクリーンな国にするための動員の原動力として活動しています。



WORLD CLEANUP DAYは、ごみのポイ捨て問題、そして環境や健康への影響という問題に目を向けさせる手段として、世界中で称賛されています。モザンビークでのこのイベントの目的は、社会全体を結集し、健康な環境と住民の生活の質を向上させることです。

モザンビークでは、9月16日から17日にかけて、WCD2022が開催されました。16日は、全国の小学校でゴミ拾い活動や意識啓発、講演会などが行われ、過去最高の150万人のボランティアが参加しました。日程は、学校での講義やクリーンアップ活動を通じて、子どもたちや青少年の参加を最大限に確保できるよう、教育・人間開発省のトップと戦略的に決めました。Let's Do It モザンビークのボランティアは、学校でのWORLD CLEANUP DAYを成功させるために、全国で先生たちと一緒に活動しました。

17日には、モザンビークで過去最高の参加率となり、約50万人のボランティアが海岸や自宅付近、近隣の清掃に参加し、固形ごみの回収量はなんと7,000トンにも達しました。これを達成するためには、国土環境省をはじめ、州、県、市町村の関係機関との連携が決め手となりました。

全国のボランティア参加者数で、9月16日から17日にかけて最も多く参加したのはマプト市で、35万3,347人が参加しました。2位はマプト州で、31万7,655人が参加しました。3位は北部のナンプラ州で28万3,876人でした。

WORLD CLEANUP DAYに先立ち、8月17日から9月14日にかけて、一連の能力向上セッションが開催されました。このセッションは、活動家、ボランティア、パートナ

ー、自治体の中心人物、そしてトレーニングに関心のある市民に対して、WORLD CLEANUP DAYを広めることを目的としました。能力開発セッションの主なテーマは以下の通りでした。

- 廃棄物汚染の影響
- WCDの着手
- 衛生教育
- 家庭からのごみゼロ
- 循環型経済

これらのテーマは、WORLD CLEANUP DAY以降も、地域レベルで公共の場を清潔に保つ取り組みができるようにすることを目的としました。WORLD CLEANUP DAYに向けて能力開発教育を受けた1,408人の参加者たちは、南部、中部、北部の各地域を担当し、コーディネート、ロジスティックス、データ共有の面でイベントの成功に大きな役割を果たしました。

きれいな地球をつくるために力を合わせましょう！



モザンビーク



<https://worldcleanupday.jp>

NPO法人 WORLD CLEANUP DAY JAPAN

info@worldcleanupday.jp



supported by

